「～デ／ニ」両形語形容動詞の再考

俞　　暁　明

1．はじめに

日本語の形容動詞のうち、「必死で叫ぶ／必死に追う」「本気で考える／本気に考える」などのように、同一語が連用修飾語として動詞述語を修飾するときに「～デ」と「～ニ」の二つの形を有するものがある。本稿はこれらを「～デ／ニ」両形語形容動詞と呼ぶ。この類のものについて、筆者は前稿(俞1997)で一通りの検討をしてみた。本稿は、新聞記事データベースによる用例調査の結果に基づいて前稿の結論を検証し、その不備を補う。そして、前稿では調査不足のため全く言及できなかった「元気」について分析を加える。なお、記述の簡便化のため、以下の叙述では特にことわらない限り、「～デ／ニ」両形語形容動詞を単に「両形語」と略称する。

2．前稿のまとめ

「両形語」に対する考察を進めるため、前稿の要点をまとめておく必要がある。

前稿では、主に「両形語」の品詞認定、使用状況および修飾関係をめぐって論述を展開した。具体的には、形容動詞「～デ」形の連用修飾用法が一部の先行研究（例えば矢澤(1989)）に触れられたものの、「両形語」についての研究はほとんど見られない、という事実を指摘した上で、結論として次の四点を挙げている。

①形容動詞はその連用形副詞法の形態上の相違から、「～ニ」の形でしか用いられないもの（「静か、盛ん、まじめ、きれい、丁寧、大事」など）と「～デ／ニ」の両形で用いられるもの（「必死、平気、本気、無言、夢中、無我夢中、丈夫、久しぶり」など）、の二つに分けられる。

②形容動詞のうち、「両形語」に属するものはその全体のわずかの一部分であり、しかもそのほとんどが「漢語語彙」である。

③「両形語」はその使用状況から、「～デ」形と「～ニ」形の両方がともに高い使用率で用いられるもの(「必死」)、「～デ」形または「～ニ」形の片方だけが多用されるもの（その他)、に大別できる。

④「両形語」とその修飾先とのかかわりから、「～デ」形と「～ニ」形の両方が同一動詞を修飾しうるもの(「必死、本気、久しぶり」)とそうでないもの（その他）がある、と考えられる。

また、調査不足のため、次の二点が問題として残っている。一つは、「半信半疑」のようなものは形容動詞として認めるべきか、という問題である。前回の調査では、「半信半疑」の「～デ」形と「～ニ」形の用例はともに採集したものの、肝心な「～ナ」形の用例が一つも見当たらなかったので、結局品詞性未確定の理由でこの語を考察の対象から外した。もう一つは、「元気」のような典型的な形容動詞は「両形語」に仲間入りする資格があるのか、という問題である。こちらも用例調査の結果、「元気」の「～デ」形の実例が見つからなかったため、これを取り上げて説明するのを保留した。

3．「両形語」の実態調査

前稿では主に「丈夫」「必死」「平気」「本気」「夢中」「無我夢中」「無言」「久しぶり」の八つの語を取り上げて考えてみたが、そのいずれも実例が限られているので、これらのものについて再び用例調査を行うことにした。

3－1．調査の目的

今回の調査の目的は次の二点にある。一つは、前稿でまとめた結果は実際の使用状況と一致するのかを検証・補足することである。もう一つは、前に触れなかった「元気」の使用実態を把握しその「両形語」としての性格を明らかにすることである。

3－2．調査の対象、方法

近年、パソコンの普及と言語資料のＣＤ－ＲＯＭ化に伴って、個人研究の場合でも電子化資料による用例調査の方法がよく用いられるようになってきた。必要な項目を設定しただけで大量のデータを短時間で検索・処理できるからである。そこで、筆者もこの方法を取って今回の調査を行うことにした。検索の簡便さと収録範囲の広さから朝日新聞を調査の対象にした。具体的には、「朝日新聞ＣＤ－ＲＯＭデータベース」を利用して実施したのである。(1)

3－3．調査結果

上記した「両形語」が連用修飾語に用いられる時の使用状況を調べるのが一番目の目的なので、まず「検索語」に、順番で各語の「～で」形と「～に」形の二つを入れ替えて調べてみた。「検索範囲」には「見出しと本文」と記入し、そして「検索期間」は、コンピューターで検索できる最初の時点から調査開始の時点まで、つまり「1984年１月１日から2001年２月31日」と設定した。それからこれらの語の「～な」形についても同じ条件下で調べてみた。さらに、問題として残っている「半信半疑」と前回取り上げなかった「元気」を加えて補足

調査を行った。その結果は次の表１の通りである。

〔表１〕

語　例	検索語（波線はそれぞれの語を表す）と総件数			
	～で	～に	～な	（備　　考）
丈夫	3600	742	2938	「大丈夫」の例も多く含む
必死	3550	5984	377	「～なのだ」なども含む
平気	3172	108	623	「～なのか」なども含む
本気	5172	816	297	「～なのか」「～なんだ」なども含む
夢中	3128	3678	218	「～なのだ」「～なのは」なども含む
無我夢中	690	30	2	「～なだけ」「～なだけでは」各１例
無言	1575	54	20	「～なのだ」「～ながら」なども含む
久しぶり	393	8303	57	「～なので」「～なのは」なども含む
半信半疑	380	8	54	「～ながら」「～なのだ」なども含む
元気	6753	13717	10572	「～なく」なども多く含む

このように、上記の方法で検索した結果、あまりにも膨大なデータが現れてきた（但し、どの語においても、「グリーン表示のもの」即ち開くことのできない正体不明のものが幾分含まれる）。そして、それぞれの用例を詳しく見てみると、いずれの語においても、その「～デ」形と「～ニ」形には連用修飾用法のもののほか、述語やその他の用法のものも多く含まれていることが分かった。もちろん、その「～ナ」形も表１に示されるように連体修飾用法のものばかりではなく、一部の語に限って言うならば、むしろ連体修飾用法のほうが少数派と言えよう。例えば、表１の「無我夢中な」のほか、「無言な」「半信半疑な」「久しぶりな」の内訳を見てみると、次のようになる。

○無言な（20例）

無言な神（１例）／無言なる（指示に従ひ）（１例）／無言なのが（１例）／無言などの（いたずら電話・痴呆症状、など）（６例）／無言ながら（２例）／無言なのだ（２例）／無言なので（２例）／無言なのだから（1例）／（夏に来て原爆ドーム）無言なり（３例）／無言なれど（１例）

○半信半疑な（54例）

半信半疑な表情（旅人・思い・気持ち）（５例）／半信半疑なのは（１例）／半信半疑ながら（21例）／半信半疑ながらも（7例）／半信半疑なのだ（なんです）（７例）／半信半疑ならぬ（１例）／半信半疑なら（いいが）（1例）／グリーン表示のもの（11例）

○久しぶりな（57例）

久しぶりなのは(　確かだ)(2例)／久しぶりなる朝風呂(1例)／(映画は)久しぶりなので(37例)／久しぶりなんだから(2例)／久しぶりなんです(1例)／久しぶりなんだって(1例)／久しぶりなんで(うれしかった)(2例)／久しぶりなんておかしい(1例)／グリーン表示のもの(10例)

ところで、今回の調査は個人作業である上、データベースの利用期間にも制限があるので、これらのすべてに目を通して見ることができなかった。そこで、検索語に「～で　AND　～に」と新たに設定して調査を再開した。これによって「～デ」形と「～ニ」形の両方の用例を同時に採集できるだけでなく、同一文章に「～デ」形と「～ニ」形の両方が用いられる現象をよりよく観察できるのも一つの狙いである。すると、次の表2が得られる。

〔表2〕

検索語	語例と総件数									
	丈夫	必死	平気	本気	夢中	無我夢中	無言	久しぶり	半信半疑	元気
～で AND ～に	16 (4)	102 (19)	2 (1)	46 (8)	68 (12)	0	0	18 (4)	0	509 (48)

注：括弧内の数字は「グリーン表示のもの」である。

表2において、「無我夢中」「無言」「半信半疑」の三つは用例数がゼロなので、「両形語の連用修飾用法(つまり「～デ」形と「～ニ」形)を考察するにあたっては、これらを今回の対象から外した。一方、「元気」のほうは大量のデータが出たが、この中から約三分の一にあたる167例をランダムに抽出した(検索期間を「1999年1月1日～2001年2月31日」と設定した)。また、「両形語」の代表的なものと思われる「平気」や「本気」の使用状況をより詳しく観察するため、補足作業としてこの二つの語のサンプリング調査を行った(検索語にそれぞれ「平気」と「本気」を入れ替え、検索期間は「2000年7月1日～2000年12月31日」と設定した)。こういう作業と並行して表2に示される内容をさらに詳しく見ていくと、表3のようにまとめることができる(総件数は「グリーン表示のもの」を除く。また、一件のうち複数の用例が含まれる場合もある。延べ用例数)。

〔表３〕

語例／総件数（デ形とニ形の用例比）		「～デ」形の内訳			「～ニ」形の内訳					
		～で→V(φ)	～で(＝だ・でない・φ、等)	その他	～に→V(φ)	～になって→V	～になる（なれる等）	～にする	～にさせる	その他
丈夫／12 (11:14)		2	8	1	6		5	2		1
必死／83 (86:89)		68	18		76	6	6			1
平気	①／1 (1:1)	1			1					
	②／208 (178:1)	109	68	1	1					
本気	①／38 (44:42)	39	5		6	6	19	6	4	1
	②／337 (363:27)	238	67	28	4	3	13	4	3	
夢中／56 (56:65)		45	10	1	0	8	54	1	2	
久しぶり／14 (14:15)		2	12		14					1
元気／132 (157:168)		72	76	9	105	4	43	5	1	10

注：「平気」②と「本気」②は補足調査の結果である。

4．調査結果についての分析

前節では、表１～３を通して、新聞記事データベースによる用例調査の結果を示した。この節では上の調査結果に基づいて「両形語」の修飾関係を中心に分析を加え、前稿の結論を検証していきたい。一般的には、「両形語」のうち、用例の多いものほど動詞との共起範囲が広いと考えられる。また、個別的に見ると、比較的多用される「元気」「必死」「本気」の三つの語は、その修飾先である動詞の語種の違いから大きく二つに分けられる。つまり、「和語」「漢語」「外来語」のいずれをも修飾しうるという点において、「本気」と「必死」は「～デ」形、「元気」は「～ニ」形、となっている。一方、「本気」の「～ニ」形と「元気」の「～デ」形はほとんど「和語」にかかわり（「漢語」にかかわる場合は「元気で退院する」ぐらいで）、「必死」の「～ニ」は「和語」とも「漢語」とも相性よく共起する。

では、まず表３における「両形語」の連用修飾用法の用例数（太字の数字に注目）から、「～デ」形と「～ニ」形の双方の比率を見てみよう。表３には全部で七つの「両形語」を収めているが、それぞれの「～デ→V」と「～ニ→V」の用例数を見比べると、これらを三つのグループに分けられる。つまり、Ⓐともに多用されしかもほぼ同じ使用率をもつもの（「必死」）、Ⓑ「～デ」形のほうが多用されるもの（「平気、本気、夢中」）、Ⓒ「～ニ」形のほうが多用さ

れるもの(「丈夫、久しぶり」)、となり、これは前稿の結論と全く一致している。残りの「元気」は今回新たに取り上げたものであるが、表3を見て分かるように、その「～ニ」形と比べて「～デ」形のほうも比較的多く用いられているので、Ⓐグループに入れるべきであろう。(2)

次に、連用修飾語としての「～デ」形と「～ニ」形の双方が同一文章(記事)に用いられる現象について考えてみよう。前稿では「久しぶり」だけしか取り上げていないが、実は「両形語」において、これはかなり一般的な現象である。今回の調査によって、「久しぶり」のほか、「必死」「平気」「本気」「元気」などの例も採集することができ、特に「必死」と「元気」の二つにはこの現象が顕著に見られる(例文中の"■"印は段落の境目を表す)。

(1)…「人質」として足止めされていた邦人74人が帰国した8日、県内でも3家族が喜びの再会を果たした。■…昼食は近所の人が用意してくれたものを、久しぶりに家族水入らずで食べた。■…有さんはこれまで食べられなかったさしみなどを、おいしそうに口にした。■久しぶりで自宅のふろに入ったあと、さすがに疲れたのか、午後8時すぎには床についた。…。(朝日新聞・1990/11/9)

(2)…。■…戻った時、自宅の町営住宅は水没していた。妻貴子さん(三五)は懐中電灯で必死に天井を破り、貴裕君の妹二人を屋根に避難させた。子ども部屋で三段ベッドの一番下に寝ていた貴裕君だけが逃げ遅れた。■救助された貴裕君に哲也さんは必死で人工呼吸を繰り返した。…。(朝日新聞・1999/10/1)

(3)…。■「ガイーブでバリケード」というのはそうした精神の対極にある性格に、故石子順造氏がつけたアダ名であるけれども、程度の差こそあれ、この世で平気に生きていけるのは、いずれにせよ、精神がガイーブ(内部←→外部のシャレ)でバリケードな人なのだった。■私も、平気で生きている。…。(朝日新聞・1999/4/24)

(4)…。■市内での自然観察会やリサイクル活動を続けるうち、古沢理事長は「環境問題を本気で考えていくには企業とも一緒に取り組んでいく必要を感じて」エコネット設立を決めた。■…。■…。■古沢理事長の考え方に賛同したという同市内の建設会社役員(三五)は「これからは地元企業も環境問題に本気に取り組まないと見捨てられる。…」と期待を寄せる。(朝日新聞・2000/5/24)

(5)佐賀市高木瀬東五丁目の高木瀬小学校(八百十九人)では午前九時から修了式が体育館で行われた。児童の代表に修了証を渡した後、山崎浩校長が「この一年、みなさんは大きなけがや病気もなく、元気に過ごせました。四月六日に、また元気で会いましょう」とあいさつした。(朝日新聞・2000/3/25)

次に、「～デ」形と「～ニ」形の両方が同一動詞を修飾する現象について詳しく見てみたいが、前稿ではその語例として「必死」「本気」「久しぶり」の三つを挙げている。これも今回の調査結果と一致している。そして「平気」と「元気」も新たに加わる。「平気」の用例は例(3)の通りであり、次にほかの例を示しておく。

(6) a．…。が、庵野自身の自己像とそれは、微妙なズレがある。庵野は親の必死で働く姿を見て、どこかで自分の甘えを抑圧していた。(朝日新聞・1998/8/31)

b．…。必死に働いて息子を大学に入学させた彼は、心の中では中学の頃から「公務員になってくれれば」と思っていた。…(朝日新聞・1998/8/31)

(7) a．小田島　教育課程審議会での過程を見ると、最初の波は家庭科の男女共修の問題で、直接、教育に関係のない委員の中には、本気でやるつもりか、と真顔で聞く人がいたり、共学と共修とはどう違うのかといった議論が出たりで。

下村　それはどう違うのか。(朝日新聞・1989/2/11)

b．――じゃあ、ほんきですね。

――本気にやるの。あの三波春夫と。…。(朝日新聞・1997/2/17)

(8) a．久しぶりで訪れたカンボジアの人たちはやっぱりみんな平和を訴えていました。…。(朝日新聞・1994/4/17)

b．メンバーは五月の連休明けから練習を再開し、宮崎での合宿を経て白馬入りした。…。久しぶりに訪れた思い出の舞台に「観光客が増えて良かったですね」。(朝日新聞・1998/6/4)

(9) a．大変だったこの一年で、私は多くのものを失った気もするが、大切な何かを得て、それを抱きしめ、今日も元気で生きる。(朝日新聞・2000/4/25)

b．…、自分の口を喜ばせるために、材料を選んだり、料理をしたりするのは、元気に生きることにも結びつく、と私は確信している。(朝日新聞・2001/1/31)

「～デ」形と「～ニ」形の両方が同じ修飾先にかかるという点においても、「必死」と「元気」のほうが特に目立ち、共に多くの例が見られる。それぞれの修飾関係を簡約して示せば次のように表すことができる。

(10)「必死で／に」→生きる／抑える／かばう／頑張る／食らいつく／闘う／食べる／取り組む／投げる／走る／働く／学ぶ／守る／やる／努力する／勉強する／…(3)

(11)「元気で／に」→生きる／行く／帰る／通う／頑張る／暮らす／過ごす／育つ／育てる／続ける／出る／長生きする／働く／迎える／やる／…

このうち、最も注目すべきことは、同一文章(記事)の見出しと本文に「～デ」形と「～ニ」形の双方が対照する形で用いられている、という現象である。

(12)必死にやれば参院過半数も　加藤幹事長が見方

加藤紘一自民党幹事長は二十六日、七月の参院選について「(…) 六十九議席取らなければならない。簡単な話ではないが必死でやれば手が届くのではないかという気がする」と述べ、過半数回復も不可能ではないとの見方を示した。(朝日新聞・1998/4/27)

(13)円都　必死に生きる姿への憧れは（風景の向こう側：9）／東京

…。試写会などでのアンケートの束をめくる。「不思議で楽しいまちがすてき」(18)、「2時間以上夢が見られた」(21)。「皆必死で生きている。今の日本人にどれくらいいるだろうか」(21)。…（朝日新聞・1996/12/31）

(14)必死に学ぶ英国流（昭和にんげん史：70）

…イギリスのダンスを必死で学ぶようになる。7年後の昭和37年、メルボルンに遠征、相次いで選手がイギリスに留学、…。(朝日新聞・1988/7/1)

(15)最高の試合ありがとう　健闘たたえ、喝さい　父母や生徒必死に声援

…。「試合も応援もここが踏ん張りどころ。必死で声援を送ります」と、大粒の汗を流しながら「がんばれー」を叫び続けた。(朝日新聞・1999/8/17)

(16)元気で長生き、がんばる長野

…。男性の平均寿命は全国一位、女性も四位。…。こんなデータから、都道府県のなかで「元気に長生き」の理想にもっとも近い、とみられている。(朝日新聞・2001/1/1)

(17)元気で行こう、あの世への旅（声）

…。皆さん、死ぬまでやれることをやって、元気にあの世へ旅立とうではありませんか。(朝日新聞・1999/12/24)

(18)鈴木総一郎君　グーちゃん元気に育ってね（近況・心境）

兵庫県豊岡市の水族館「シーズー」が公募していたセイウチの子どもの名前が「グー」に決まった。名付け親は長岡京市の小学三年、鈴木総一郎(九つ)。…。総一郎君と恵子ちゃんは「元気で育って欲しい。また会いに行きたい」。(朝日新聞・1999/10/11)

(19)バス人質の女児、元気に通学　父「事件に向き合いたい」

西鉄バス乗っ取り事件で、人質になった佐賀県久保田町の思斉小一年、石橋優希ちゃん(六つ)の父親博さん(四一)が五日、自宅で記者会見した。事件から約一カ月、優希ちゃんは元気で学校に通い、笑顔も戻ったといい、…。(朝日新聞・2000/6/6)

(20)今年も元気にボランティア

こうした事は自分ひとりで出来るボランティアであるから、今年も元気で続けようと、マイフェイスを眺めている新春スタートである。(朝日新聞・2001/1/13)

上例をよく観察してみると、次の面白い傾向性が見られる。つまり、「必死」のほうは(例(12)～(15))いずれも見出しは「～ニ」形、本文は「～デ」形、であるのに対し、「元気」のほうは(例(16)～(20))「～デ」形と「～ニ」形の双方がともに見出しと本文に現れてくる、ということである。さらに、「必死」の上記した特徴に関連して、同一記事の本文と写真説明における用法を比較してみても同様な結果が観察できる。詳しく言うと、本文の場合は「～デ」形、写真説明の場合は「～ニ」形、と真っ二つに分かれる。次の例を見てみよう。

(21)…。参加者らは、むせながらも必死で食べ続けていた。観客からは「もう少し」など盛んな声援が飛んだ。

【写真説明】応援を受けて必死に食べる参加者ら＝福江市の元町アーケード通り警察跡地で(朝日新聞・1999/2/7)

(22)…。佐々木さんが除草剤の代わりに使っているのは二百五十羽のアイガモだ。園児たちは田んぼの中で必死でえさを食べているアイガモを見て大喜び。…。

【写真説明】園児らは田んぼの草などを必死に食べるアイガモを興味深そうに眺めていた＝三本木町伊場野で(朝日新聞・2000/6/22)

(23)…。(建築費を寄付した名古屋市の市民団体が)「立派な学校はなく、寒くて暗いところでも必死で勉強する子どもたちの姿に接してほしい。自分たちにできることを考える、きっかけづくりになれば」と話している。…。

【写真説明】教室は暗かったが、必死に学ぶ子どもの瞳は輝いていた／写真提供・石川美由紀さん＝中国甘粛省天水市で(朝日新聞・1998/6/5)

最後に、「両形語」のうち、特に問題視される「半信半疑」及び「無言」について説明を付け加えよう。筆者は前稿の一覧表を通して、この二つの語は現行の各種の国語辞典においていずれも形容動詞として取り扱われていない、という事実を明らかにした。それと同時に、各文献における形容動詞の認定基準は必ずしも明確なものではない、ということも指摘した。が、「半信半疑」についてはその「～ナ」形の用例が一つも見当たらなかったため、結局これを考察の対象から外した。ところが、今回の新聞記事に対する用例調査で、3－3のまとめに示されたように、「半信半疑な」が純然たる名詞を修飾する用法だけで五例も見つかったので、当然この語を形容動詞と認めるべきであろう。また、「無言な」が純然たる名詞を修飾する用例は今回も一例しか見当たらないが、かといってこの語の形容動詞としての品詞

性を否定するわけにはいかないだろう。次にそれぞれの用例を具体的に示しておこう。

(24)まさかの十二人抜きで三位に入り、表彰台にのぼった弘前工二年、外崎奨太選手(一七)は半信半疑な表情だった。(朝日新聞・1999/2/6)

(25)すらっとそういうことが出来た。さすがに意外に思ったらしい。良昌は半信半疑な表情で、しばらく未知代の顔を見つめた。(朝日新聞・1998/3/7)

(26)スコットランドの人たちは、ハギスがいかなる動物か論じつつ、その奇獣の実在性について半信半疑な旅人と談笑することを何よりも楽しみにしている。(朝日新聞・1995/7/8)

(27)教義に精通している元幹部の男性は「信徒の対応は二通りだと思う」と語った。元幹部によると、出家信徒の中にも麻原容疑者に心酔しきっている人と、半信半疑な思いを胸に秘めながら、漫然と修行している人がいるという。(朝日新聞・1995/5/17)

(28)水雷さんは6日、まずラジオで「全員解放」を聞いた。さらに仲間と一緒にテレビで確かめた。「今まで何度も(解放のニュースには)裏切られたので、帰られるかどうかは半信半疑な気持ちもあります。…」という。(朝日新聞・1990/12/7)

(29)ルシンダの建造した総ガラス造りの教会を奥地へ運んだオスカーが、教会ごと川底に沈んで死ぬまでの見事な映像に表現される無言な神の意思は、荘厳で美しく胸にせまる。(朝日新聞・1998/11/26)

5. おわりに

本稿は、前稿の論述を踏まえた上で、新聞記事データベースによる実態調査の結果に基づいて検討を深めた。以上の考察を通して、前稿で得た結論の妥当性が検証・確認され、そしてその不備な点を補足することもできた。また、「元気」の「両形語」としての性格や「半信半疑」の形容動詞としての品詞性も今回の考察によって明らかにされた。

ところで、一口に「両形語」といっても、中には「必死」「平気」「本気」のように、事柄内容または人称表現の違いによって動作主の気分を表したり物事の状態・様子を表したりするものもあれば、「丈夫」「夢中」「久しぶり」「元気」のように、もっぱら物事の状態・様子を表すものもあるので、さらに検討を深めていく必要がある。また、「両形語」は語によってその修飾関係に多くの違いが見られ、例えば「～デ」形と「～ニ」形の意味解釈や双方の置き換えの可能性、動詞との共起制限、構文上の特徴など、いろいろな問題があるが、実態調査の分析に主眼を置く本稿ではこれらについて考える余裕がなかった。すべて今後の課題にする。

〔注〕

1．この調査は、筆者が2001年春、客員研究員として日本同志社大学での研修の際に行った項目の一つである。同大学の関連施設を自由に利用させていただくことに改めて謝意を表す。

2．省略文の「元気で(ね)」(22例)は「～で→V(φ)」に収めている。これらは「元気で頑張って(やって／…)ね」の短縮表現だと思われるからである。

3．このほか、類義動詞を修飾する例として、「必死で頑張りたい／必死に努力する」(1998/2/6)「必死で勉強する／必死に学ぶ」(1997/8/19)「必死で抑える／必死にこらえる」(1997/7/19)「(相撲)必死でやる／(相撲)必死におっつける」(1995/5/20)「(相撲)必死で切りにいく／(相撲)必死に取る」(1995/5/16)、などが挙げられる。

〔参考文献〕

矢澤真人(1989)「修飾語と並立語」『講座日本語と日本語教育4』明治書院

兪　晓明(1997)「「～デ／ニ」両形語について―いわゆる形容動詞の副詞法をめぐって―」『日本語教育論集』4(東北師範大学出版社)

小川芳男・林大他(1987)『日本語教育事典』(縮刷版)大修館

飛田良文・浅田秀子(1991)『現代形容詞用法辞典』東京堂出版

文化庁(1990)『外国人のための基本語用例辞典』(第三版)

(ユ　ギョウメイ　中国・大連外国語大学教授)

『岡大国文論稿』第二十九号(平成十三年三月発行)要目

論文

『狭衣物語』女二宮の身体をめぐって
―表出の方法あるいは〈媒体〉としての身体―……土井　達子

『忠度集』の歌語「人かずにあらず」について……瀬良　基樹

徒然草における漢籍の受容―老荘思想を中心に―……曹　景恵

『花鳥風月』における末摘花像について……金　賢貞

『桂林漫録』攷―森島中良の文雅の質―……石上　敏

作州疎開時代の谷崎潤一郎……工藤進思郎

現代日本語のニヨッテの意味機能……西本　勝博

「～ヲバ～ヲ」構文の構造と意味機能……中村　晓子

平安初期和文における接続助詞ド・ドモの機能……江原由美子

書評・新刊紹介

太田紘子著『二葉亭四迷『あひびき』の語彙研究―
『あひびき』はどのように改訳されたか―』……下河部行輝

椎名誠著　蔡雅娟訳『中國島人』(中国語訳)……何　欣泰

兪　晓明著『現代日語副詞研究』……中村　晓子